

福岡市総合計画審議会

第5回 都市の成長部会

会議録

日時 平成24年10月30日(火) 午後3時30分

場所 天神ビル11階 11号会議室

出席者（五十音順、敬称略）

青木 計世

小俣 郁雄

後藤 俊介

出口 敦

藤野 直人

水城 四郎

阿部真之助

甲斐 敏洋

後藤 太一

富永 周行

古川 清文

安浦 寛人

池内比呂子

小塩 正己

高比良拓児

鍋山 徹

星野 裕志

李 環宇

福岡市総合計画審議会

第5回 都市の成長部会

〔平成24年10月30日（火）〕

開 会

1 開会

○星野部会長 皆さん、こんにちは。それでは定刻となりましたので、今日出席予定でおくれて来られる委員の方もいらっしゃいますけれども、ただいまから福岡市の総合計画審議会第5回の都市の成長部会を開会したいと思います。

この部会は、あと来週設定されている第6回と、第3回の総会を経て答申に至るということで、いよいよ大詰めです。パブリックコメントを経ての大詰めに來まして、できる限り今日で、皆様からご意見をいただいて内容を固め、次回は一部修正をしながら最終的なまとめに入るというプロセスになります。今日が本格的な審議の最終回になると思います。非常に密度の濃い内容と審議になるかと思いますが、よろしくお願ひします。

それでは、光山部長から現在の状況についてご説明いただけますでしょうか。

○事務局（光山） 企画調整部の光山です。こんにちは。前回は8月末に第2回総会を開催させていただいて、それからちょうど2カ月ぐらいたっております。いよいよ今日から、先ほど部会長からありましたように後半戦の審議になります。後半戦ではパブリックコメントでいただいたご意見に基づく内容の修正、前半戦の積み残しなどを中心にご審議いただければと思います。

この間、事務局といたしましても、課題になっておりました成果指標あたりも大分ブラッシュアップさせていただいたつもりです。

ただ、先ほど部会長からもありましたように、今日と来週の2回で部会が終わります。この2回で集中的にご議論をいただいて、11月19日には第3回目の総会となりまして、基本的には、こちらで総合計画の答申をいただきたいと思っております。その後22日の答申、議会に原案という形で提出して、議会でもご審議いただく流れになります。大変短い時間ですけれども、後半戦のご議論をしっかりとお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

2 審議（基本構想、基本計画）

○星野部会長 それでは、これから今日の審議に入りますけれども、今までパブリックコメント前、パブリックコメント後という言い方をしておりました。パブリックコメントを市民の方から集めて、それをどのようにこの中で反映させていくかということ非常に

に重要視されたのが前半でした。それを受けて後半に入るわけですが、パブリックコメントをどのように生かしていくのかを含めて、今、光山部長からもお話しいただきましたけど、今後のプロセスとしては、答申をして、議会のほうで話し合われるということです。この進め方の枠組みをもう少し、パブリックコメントの位置づけや、どういうふうにもこの中に取り入れていくかを含めて、藤本課長からご説明をお願いしたいと思います。

○事務局（藤本） はい。それでは、事務局から、スケジュールを再度ご説明させていただきます。資料1をお願いいたします。

資料1、今後の審議スケジュールです。第1回総会から第2回総会まででまとめさせていただいたパブリックコメントの案を、審議会のパブリックコメントとして実施させていただいたところです。本日は、パブリックコメントの意見を反映した修正案ということで、案をご提出しています。これにつきまして審議会として、こういった形で反映して最終案にするかをご審議いただきまして、本日そして第6回の部会で、部会としての案をまとめていただきます。生活の質の部会でも議論がっておりますので、そちらとの調整を両部会長のもとでさせていただきまして、両方をあわせたものを11月19日の総会に最終答申の案という形でお諮りいたします。

ですので、11月19日の段階で、総合計画審議会としての答申案を固めていただきまして、それを総合計画審議会から福岡市に対して答申いただきます。福岡市として答申いただきますので、それを受けて基本構想・基本計画の案を議案として12月の議会にご提案するという流れになっているところです。

○星野部会長 ありがとうございます。それでは、今からお手元に配られました非常に厚い資料の説明をいただきますけれども、説明に1時間ぐらいかかるということです。その後に審議が入るわけですが、まず、審議の枠組みだけお話をして、この1時間の説明を聞いていただいたほうがいいのではないかと思います。

最初は、前回と同じように、基本構想と基本計画について、全体を見直していただくことが審議のポイントです。

二つ目で、一番重要な分野別の目標がありますけれども、ご存じのとおり1から4は生活の質部会が担当されていますので、私たちがこの部会で担当する目標の5から8について重点的に皆さんからご意見をいただいて、それを固めていただきます。

最後の部分は、特に空間構成というのは若干の見直しだけなので、大きな修正はないかと思いますけれども、その後の空間構成と区の部分について少し修正すべき点があれば、ご意見をいただきます。説明の後、三つに分けて審議をしていただきたいと思います。

ますので、そのようにお考えになられて、これからの説明をお聞きいただきたいと思
います。

では、説明をお願いいたします。

○事務局（藤本） それでは、事務局から資料を一括してご説明させていただきます。よ
ろしくをお願いいたします。

先に資料の確認をさせていただきます。資料2が、市民意見募集における意見要旨と
意見への対応です。次に、資料3が、1枚紙の継続審議事項です。資料4が、総合計画
の答申案ということで、意見を反映した案をお配りしております。その下に、資料番号
を書いておりませんが、意見募集資料ということで、これはパブリックコメントした際
の案について参照のためにお配りしています。それから、資料5が成果指標についてと
いうことで1冊ございます。あと、カラーの参考資料で「ふくおか未来カフェ！」につ
いてお配りしております。

それと、先日、高齢化社会に対応した他都市の先行事例についてお配りしてありまし
た。前回の総会の際に、そういったものをみんなで勉強しようということで委員からご
指摘いただきましたので、事前にお配りさせていただきましたが、本日はそれについて
の議論の時間はございませんので、後で見ただければと思います。

それでは、資料をご説明させていただきます。

それでは、まず資料2をお願いいたします。市民意見募集における意見要旨と意見へ
の対応です。

まず1ページをお願いいたします。市民意見募集の実施結果の概要について、実施の
目的ということで、総合計画の策定に当たって、総合計画審議会できりまとめました計
画原案に市民の意見を反映させるためのパブリックコメント手続ということで、市民意
見を募集しました。実施機関としては総合計画審議会として募集をしました。期間は9
月9日から10月10日の1カ月間でした。実施方法としては、計画の原案を情報公開室や
区役所といったところに置いて配布ですとか、ホームページへの掲載、それから各区で
原案の説明会を開催しております。意見提出の方法としては、意見提出用紙を閲覧場所
で出していただいたり、郵送、ファクス、ホームページや電子メールなどで受け付けて
おります。意見の提出状況としては、提出者総数が112通で、当然、1通に複数の意見
を書いて出していただいておりますので、意見の件数としては535件いただいていると
ころです。

2ページをお願いいたします。

6、意見の概要ということで、子どもや防災、生活基盤、環境などの分野について多
くの意見をいただいております。また、成果指標の適否についても多くの意見をいただ

いております。また、既に原案に趣旨として記載されている意見もございました。計画全般にわたって寄せられましたが、主なものを追加でご説明いたします。

一つ目の基本構想については、昭和62年に定めた構想をどうして改定する必要についての説明がない、言葉がわかりにくい、もう少し福岡らしさを出してほしいというご意見もございました。

2番の基本計画ですが、基本戦略について、生活の質の向上と都市の成長の好循環ということですが、生活に関する言及が少ないのではないかと。また、都市の成長については、域外からの立地だけではなくて、地場中小企業の支援などが重要という声もございました。また、大学を卒業した人材が福岡に残って就職しやすい環境づくりですとか、都市圏についてのご意見もございました。

行政運営について、財政運営は財源不足を懸念するご意見や、行政サービスが区や地域によって偏りがあってはいけないというご意見もございました。

構成として、「福岡市を取り巻く状況」やグラフなどは資料編として別でもいいのではないかとのご意見もございました。

3ページをお願いいたします。

各論の「全般」で、指標が適切でないとのご意見がいろいろとございました。それから、中国、韓国とのかかわり方について否定的な立場からの意見が多くございました。

イで、目標1の「一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている」というところでは、子どもに対する虐待防止や子どもの権利条約など、子どもについてのご意見が多くみられました。あと、思いやりというキーワードを入れたいというご意見ですとか、文化のところに集客という表現は少しストレート過ぎるのではないだろうかとか、文化についての要望などのご意見がございました。

ウで、目標2の「さまざまな支え合いとつながりができている」については、対話というキーワードを出してほしいですとか、あとひとり暮らしの高齢者についての支援が必要ですよというご意見がありました。

目標3「安全・安心で良好な生活環境が確保されている」については、防災対策の充実についてのご意見が多くございました。

4ページの「人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている」については、省エネルギーや低炭素化についてのご意見などが多く見られました。

カ、「磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている」というところでは、大濠公園、舞鶴公園を観光資源として活用すべきというご意見、あと天守閣については建設を求める声や建設不要という声などがございました。

キの「経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている」というところでは、新しいいろいろな働き方があるので雇用という言葉が古いのではないかとのご意見など

がございました。あと、賃金や待遇面などのご意見もございました。

それから、**「創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している」**というところですが、スタートアップシティの意味がわかりにくいのではないかと、また、演劇、ダンス専用劇場ですとかシンフォニーホールをつくってほしいというご意見がございました。

ケで、**「国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている」**というところについては、空港や港湾の機能充実を求めるような声が多く見られております。

また、**「空間構成目標」**では、自転車専用道路の整備についてのご意見ですとか、マナーが守られていないという問題ですとか、あと、新たな地域拠点をつくってほしいというご意見もございました。

5ページの力はサの間違いです。サで、**「区のまちづくりの目標」**について、区ごとの特徴をもっとクローズアップしてほしいとか、多くの区において交通インフラなどをしっかりしてほしいというご意見がございました。

○星野部会長 今、いただいた112のパブリックコメントを総合計画にどのように反映させていくのかが、この部会、それから審議会で判断することであり、今日その中で反映させるべきと判断された箇所について事務局から原案を提案いただいて、それをここで審議することが次のプロセスになるということによろしいですね。

○事務局（藤本） はい。今、主なご意見だけを少しご紹介させていただきました。6ページ以降に、全ての意見について意見の要約を掲げておりまして、このように修正しますとか、これは具体的にご意見なので今後事業の際に参考にしますとか、そういった対応の仕方を全部つけております。これについては、以前お送りして見ていただいている分もあるでしょうし、見ていただいております。後ほどでも、次回でもご意見いただければと思います。

実際に、どこにどういった形で反映しましたということについては、後ほど計画の案をご説明する中で、こういった形で書いていますというご説明をさせていただきたいと思っておりますので、これについてのご説明はここまでといたします。

少し順番が前後して申しわけないのですが、資料5の**「成果指標について」**について、先にご説明をさせていただきたいと思っております。

今、パブリックコメントのご意見の中で、成果指標についてのご意見がかなりさまざまございましたので、成果指標についての考え方を再度整理したものをご説明したいと思っております。少し繰り返しのところもありますが、おさらいも含めて最初からご説明いたします。

1として、成果指標の意義と役割ということで、成果指標は施策の成果を把握していくためのもので、各施策の推進によって10年間でめざしていく数値目標の項目と水準をわかりやすく示すものです。成果指標の目標値は、行政はもとより市民、NPO、企業などが共働して達成をめざしていくものですということです。

2番目の「成果指標設定の基本的な考え方」では、一つが適切な規模、期間ということで、施策をわかりやすく示す適切な大きさ——個別の事業のようなことでもなく、また、その施策だけで達成できないような大きなものでもない、いわゆる施策をあらわすような指標の大きさにするというのが一つ。あと10年間ということでめざすところを留意します。

わかりやすさということで、できるだけデータ系のものにいたしますが、データ系の指標だけでは難しい場合には、アンケートなどによる意識系の指標を設定しています。専門的な指標をわかりやすく表現し直したり、アンケートの調査による数字について、アンケートの表現そのままを書いていてわかりにくいところがありましたので、そのあたりの表現を変えております。「歩車分離率」が言葉として少しわかりにくいので、「安全な歩行空間の確保」という言い方に変えております。

「継続性、定期性」については、公的機関の出典データなどで継続的にとれる数値であるということです。

4番ですが、「その他」ということで、一つの施策について、成果指標の設置は一つから三つとするということなんですが、ただ、施策の性質上、適切な成果指標の設定が難しいものについては、今回設定するのをやめております。前回までは全ての施策について成果指標がついていたのですが、無理やりつけていたものがございましたので、それについては今回は外しております。

それから3で、「現状値と目標値」ですが、現状値については、現時点の最新データ、または過去数年間の平均の数値です。目標値については、過去の推移や他都市との比較などから個別に置いておりますが、目標値の数字をある程度そろえようということで、有効数字2桁ぐらいでそろえていることと、パーセント単位での設定については、5%ぐらいを一つのくくりにして、余り細かく1%単位にしない形でまとめているところです。

「成果指標の活用方法」については、毎年度評価をして、計画の実施状況の評価に活用するとともに、いろいろな市政の推進に効果的に使っていきます。

最後ですが、「めざす姿をあらわす指標」ということで、施策ではなくて、それぞれの目標ごとに数字を一つ置いていましたが、施策の指標との関係もわかりにくいので不適切、要らないのではないかといったご意見が多かったので、今回削除しているところ です。

A3の成果指標の一覧表をつけております。これも中身は計画の説明とあわせていたしますが、この表の見方だけご説明いたしますと、1番左が施策の番号で、施策の名前、そして成果指標が書いてございます。その成果指標をどういう考え方で設定したかということが①です。現状値が②で、目標値は③で置いておまして、その目標値をどういう考え方で設定したかということを書いておまして、後ろのほうにデータの出典や、その他解説などをつけております。黄色いところについては、今回新しく設定している指標で、青いところは表現がわかりにくかったので直しているところです。灰色のところは削除したものです。

資料5について説明は以上です。

引き続きですが、資料3に戻っていただいてもよろしいでしょうか。1枚だけの分です。

資料3、「継続審議事項」というところをごさしまして、パブリックコメントの前までに、議論になっていましたが、結論が出なくて継続審議になっていたところです。

一つが「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流都市・福岡」の「福岡」について平仮名にしたらどうかというご提案が、生活の質部会のほうであっております。これについては、特にまだ議論しておりませんので、現在は原案のままにしております。

2番目ですが、都市像の自律というところについて、生活の質のほうの部会で、かなりご意見がございまして、行政の役割が先ではないかというお話がございました。これについては、市民生活が豊かであるためには、一定の規範のもとで一人ひとりが行動して、お互いに人権を尊重するというのでやっていく、行政は行政として本来の役割を果たすということで、これは原案のままとしています。

基本計画総論の中で、財政状況について入れたほうが良いというご意見がいくつかございまして、それについては「福岡市を取り巻く状況」の中に、財政状況についての記述を追加しております。

裏面ですが、広域連携や市役所、区役所の3層構造についての役割を記載したほうが良いというご意見がございましたので追加をしております。

6と7は、目標値を達成するための投資や経費を示せないかということでしたが、基本計画が長期的な方向性ということで、具体的な事業や財政については、基本構想、基本計画の下に策定します実施計画と、行財政の方向である行財政改革プランのほうで示すので、こちらの基本計画ではそのままとしています。

8番の交通結節のないエリアでの地域拠点については南区のほうに拠点を新たに追加しています。

あと、区について、都市の成長に貢献できるように書いてほしいということで、それについては可能な範囲で記載を追加しています。

以上、パブリックコメントでこういったご意見があって、こういったところに積み残

しがあったかを確認させていただきました。

これを踏まえまして、資料4のほうで変えたところを順番にご説明させていただきたいと思います。必要に応じて、変更前の意見募集資料をご参照いただければと思います。

まず、1枚めくっていただいてページがないところで、総合計画の体系がわかりにくいというご指摘がありましたので、体系図を追加しております。

2ページ、3ページをお願いいたします。

基本構想ですが、これについてはいろいろなご意見をいただきましたけれども、おおむね入れられているだろうということで。大きくは変えておりませんが、子どもについての記述が少し弱いのではないかとということがございまして、「将来を担う子どもたちを育むことも大切です」というつけ足しのような表現は「育むことが大切です」ということで、表現を少し直しています。

それから6ページをお願いいたします。

6ページの計画策定の趣旨につきましては、表現が少しわかりにくいので、文言を追加して、わかりやすい形にしております。

それから、7ページから9ページまでの「都市経営の基本戦略」については、かなりご意見があって大幅に手を入れているところです。一番上の4行につきましては、最後に少し説明します締めめの文章を入れた関係で修正をしています。

(1)の「生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す」というところでは、交流というより対話が大切だというご意見をたくさんいただきましたので、ここに対話という表現を追加いたしまして、下にも「交流、対話」ということで「対話」を追加しております。

それから、8ページで「生活の質の向上」については少し記述が少ないのではないかとという声が多かったので、あとの計画の目標のほうに書いている趣旨の言葉を大分追加しまして、記述を充実させております。

②の都市の成長につきましては、もともと、「まずは」という三つ目のボツから下だけが入っていたのですが、その前のベーシックなところとして、都市基盤や福岡市の魅力、地場産業のイノベーションなどをしっかり追加すべきというご意見がございましたので、追加しているところです。

それから9ページの(2)の「都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う」というところですが、こちらについては都市圏としての役割なのか、福岡市の役割なのか整理されていないというご意見がございました。整理といたしましては、上の段落のところで、福岡市が都市圏全体として発展していきますよ、単位は都市圏ですよとしておりますが、そこから下の役割については、これは福岡市での計画ですので、そういった広域的な関係を基盤にしながら九州や日本、アジアにおいて、福岡市はこういう役割を

担いますという形で整理し直しています。

それから、最後の、下のほうに行をたくさん追加しておりますが、戦略の締めになるところです。これにつきましては、パブコメの意見の中でも、「アジアのリーダー都市ふくおか!プロジェクト」に昨年参加したけれどもリーダーを諦めたのかというご意見があったりですとか、もう少し福岡らしいものにしてほしいというご意見がありました。

前回、議論の中でこれを外した際には、基本構想の都市像の後にまた都市像のようなものが出てくるとわかりにくいというご意見などがありましたので、今回、都市像ということではなくて、この戦略を進めていくための志として書かせていただいております。あともう一つ、リーダー都市というのが誤解を受けやすいのではないかとご意見もございましたので、そこについて丁寧に書く形にしておりまして、アジアが世界における重要性を確立しつつあるので、その中で福岡市が高い理想と目標を掲げて果敢に挑戦をしなければならないということで、リーダー都市という高い志を掲げて、産学官民の総力を結集して取り組みたいという記述を追加しているところです。

次、11ページをお願いいたします。

「基本計画の目標」ですが、こちらは少し見やすいように構想という言葉を追加しています。

12ページ、13ページに、基本計画の目標のめざす姿というのを全部一覧にして、丸々2ページを追加しております。構想や計画の関係が少しわかりにくいというご意見などもございましたので、ここで一旦、一覧で全部見ていただけるような形にしています。

14ページですが、「基本計画推進にあたっての基本姿勢」ということで、行政運営の基本姿勢についてです。こちらについては、行財政改革のプランで検討している外部委員会の結果などを入れていきますというご説明をしていたところです。

一つ目の「市民との共働の推進」のところですが、ここは意見ではないのですが、パブリックコメントのご意見でも、思いやりという言葉を入れてほしいとか、あとユニバーサルデザインに関するご意見がございましたので、市民との共働に当たってユニバーサルデザインの考え方をしっかり入れているところです。

それから②～④のところは行政財政改革プランに合わせて少し整理をしています。②の「持続可能な行財政運営」につきましては、考え方は以前と同じで、いろいろな経費が増大して、大きな財源の伸びも期待できないので、必要な財源を確保するために行財政の仕組みや発想、手法を抜本的に見直しますということで、こういった4つのことをやっていきますということを掲げています。

③の、「時代に合った柔軟で果敢にチャレンジする組織づくり」では、柔軟な組織運営と区役所の役割ということで、局、区がリーダーシップを発揮して組織運営をやっていきますということを掲げておりますのと、あと、パブリックコメントで、区でのサー

ビスの公平性のご指摘がございましたので、窓口サービスなどの市民生活に密着したサービスについては、現在の7区において公平性の確保に努めますという言葉を追加しているところです。

それから、組織風土改革、ICTについては、行財政運営の改革の考え方を追加しています。

⑤の「広域的な連携の推進」のところ前半からの積み残しということで、行政としての区と広域的な関係について、区のほうは上に書いておりますが、広域的な観点からの課題に対して都市圏、それから九州各都市との連携協力を推進しますということとあわせて、基礎自治体優先の原則のもとでの、いわゆる権限、税財源の移譲ですとか、道州制を見据えた大都市制度のあり方についても検討を行いますというところを記述しております。

16ページからの「福岡市を取り巻く状況」については、ご意見を踏まえて言葉を追加しているところが主でございますが、29ページにご指摘がございまして、積み残しでもありました財政状況について追加をしているところです。

そして、30ページが母都市としての役割と、それから32ページは、福岡市の姉妹都市、友好都市の交流については、きちんと先方の都市名を書いたほうがいいというご意見がございましたので追加をしているところです。

引き続き、計画各論の分野別の目標と施策のところです。

33ページに書いていますが、めざす姿のところで、先ほどご説明したとおり、めざす姿をあらわす指標というのを前回は入れておりましたが、それについては削除しております。

それと、3の「施策及び成果指標」のところで、市が取り組む施策と施策の方向性ということで、前半の議論の中で、施策と指標だけではわからないので何をするかをきちんと書くようにというご指摘がございましたので、それを追加しているところです。

34ページ、35ページをお願いいたします。目標1、「一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている」でございます。「めざす姿」のところについて、少し項目が多過ぎて姿としてわかりにくいのではないかというご意見をいただきましたので、このアンダーラインを引いているところは、複数の項目をまとめたりする形で編集をしております。特に大きく変えているところではございません。

「現状と課題」についてですが、②の「女性に対するあらゆる暴力を根絶する」というところは、ご意見をいただいて入れております。

④のところについては、文化芸術のところで「集客」というような表現をしていたのが、ここは心豊かなところだからちょっとやわらかくというようなご指摘を受けて、変えているところでございます。

35ページの⑧につきましては、子どもに関する記述を追加ということで、不登校や、それから困難を抱える子どもというようなことで追加というご意見があったので、修正しております。

36ページ以降ですが、こちらは施策1-1からそれぞれ挙げております。施策の方向性につきましては、全ての施策に追加をしておりますが、これを説明すると長くなりますし、以前からご説明していた内容を表現しているということで省かせていただきたいと思っております。

ユニバーサルデザインのところについては、指標の文言をわかりやすく修正をしております。施策1-2についても、「男女の固定的な役割分担意識の解消度」という言い方に、わかりやすく変えてございます。

それから施策1-3の「一人ひとりが健康で」というところについては、以前「めざす姿をあらわす指標」ということで挙げていたものですが、新たにこちらの「一人ひとりが健康で」の数字として挙げています。

それから施策1-4の指標は、表現を少し改めております。

1-5についても、同じく表現を改めております。

38ページの1-6、福祉の充実のところの指標ですが、一つ目の「福祉の充実に対する満足度」については、新たな指標として挙げています。もともと介護保険の在宅サービスということで個別各論だったので、大きくりのものに変えております。

1-7についても表現を少し追加しております。

1-8については、「学校の教育活動に対する満足度」ということで、全体をあらわすような指標を新しく掲げています。

40ページをお願いいたします。「さまざまな支え合いとつながりができている」ということで、上のほうは大きくはくくっておりますが、「対話」という表現を都市経営の基本戦略に入れましたので、ここでの、「めざす姿」にも「交流と対話」を入れてございます。

「現状と課題」については、文章を少し追加したほうがよいというご意見もございまして、それぞれ追加をしております。

2-1、2-2の施策の指標の項目については、それぞれ表現を改めております。

42ページの施策2-4「NPO、ボランティア活動の活性化」のところは、「ボランティアセンターの利用者数」などは適切でないではないかという声が多かったので、二つ、「NPO・ボランティア活動等への参加率」「NPO法人数」という新たな指標を設定しております。

2-5については、言葉を「ソーシャルビジネス」という形でそろえております。

次に、44ページをお願いいたします。目標3「安全・安心で良好な生活環境が確保さ

れている」ということで、こちらについては、ご意見を踏まえて、災害に関することについて、②、③は少し書き方を改めております。

⑥につきましては、節水型都市であることについてのご意見がございましたので、ここに追加をしております。

46ページをお願いします。こちらも、3-1の指標については表現を改めております。

3-4の指標については、「市民のマナーに対する満足度」ということで新たな指標を掲げています。

3-5についても、「犯罪の少なさに対する満足度」ということで新たな指標を掲げています。

48ページは、もともと「残留塩素濃度目標達成率」や「防食管延長比率」で挙げていたんですが、少しそこはわかりにくいということで表現を改めているのと、あと、水でするので、実際の節水に関する指標を入れたほうがよいということで、「市民一人あたり水使用量」を追加しております。

3-7については、わかりやすい表現に改めております。

次に、目標4でございます。こちらについても、「めざす姿」のところは、同じくある程度まとめております。

「現状と課題」の⑤についても、言葉を追加したほうがよいというご意見があったので追加をしております。

52ページをお願いします。4-1で地球温暖化についてのご意見がございましたので、「自立分散型エネルギー社会の構築」に「地球温暖化対策の推進」を追加しております。

そして、4-2の指標はわかりやすい表現に直しております。

施策の4-5については、「住んでいる地域が生活しやすく住みよい地域だと感じる市民の割合」という数字を挙げていたんですが、これについてはコンパクトな都市づくりという大きな方向性の施策をあらわす指標として適切ではないので、ここでは外しております。

また、施策4-6については、「地域や場所のマネジメントによる都市の価値の向上」ということで、いわゆるストックの活用とマネジメントということだったんですが、ストックの活用の中にマネジメントも含めたほうがわかりやすいだろうということで、表現を「ストックの活用による都市の価値の向上」としておりまして、指標については、いわゆるエリアマネジメントでの都市の魅力を挙げていたんですが、全体をあらわしていないのでということで、ここについても指標を外しております。

54ページ、目標5をお願いします。こちらも、「めざす姿」については少し表現をくくる形にしています。それから、大濠公園、舞鶴公園のところについても少し表現を改めています。

55ページの⑤については、こういった大会の実績も記述したほうがよいというご意見がございましたので、追加をしています。

56ページをお願いします。こちらについては、施策5-2「緑と歴史・文化の賑わい拠点づくり」について、「鴻臚館跡展示館の年間の入館者数」という指標を入れておりましたが、そういう小さいことではないだろうというご意見を大分いただきました。ここは一つの拠点にするということですので、今回は外しております。ただ、昨日の生活の質部会で、鴻臚館の認知度等、何かないだろうかというご意見がございまして、鴻臚館の認知度や、行ったことがあるかなどという調査をしているものがありましたので、それが使えないか今検討しているところでございます。

施策5-5のところについては、表現を「スポーツ観戦の機会への評価」ということでわかりやすい形に改めております。

施策5-6は、施策名を少しわかりやすくというご意見がございましたので、「国内外への」を追加しております。

58ページをお願いします。目標6は「経済活動が活発でたくさんの雇用が生まれている」としていたんですが、市民の方から、雇用、いわゆる雇われるということに限らず働き方はいろいろあるというご意見がございましたので、「働く場」と改めています。

60ページをお願いします。施策の6-3については、指標項目の表現を一つ改めています。

61ページの6-4の「農林水産業とその関連ビジネスの振興」ということで、もともと農業生産額、漁業生産額を挙げていたんですが、これが適切でないのではというご意見がございましたので、福岡市の「農林水産業を守り育てていくべきだ」という市民の割合」という、前回の計画からずっとアンケートをとっているものがございまして、これを掲げたらどうかということと、あと、「新鮮でおいしい食べ物の豊富さへの満足度」ということで一つ掲げているところでございます。

施策6-5の「就労支援の充実」につきましては、「市の施策による就労者数」だけではなくて「就業機会の多さに対する満足度」という指標がございましたので、それを追加しております。

次に62ページをお願いします。こちらについては、「めざす姿」のところを少しくくらせていただいております。あと、「現状と課題」は文字を少し追加しております。

63ページの施策7-1、「スタートアップシティ」がわかりにくいというご指摘がございましたので、「新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり」ということで、わかりやすい表現になるよう工夫をしております。指標につきましては、「有業者数に占める創業者の割合」を新たに掲げています。

64ページの施策7-5は、もともとは「女性や若者、留学生など多様な人材の活躍の

場づくり」を挙げておりましたが、高等教育機関についての記述をもっとちゃんとすべきだとか、新たに施策を1つ起こすべきではないかというご意見がございましたので、「チャレンジする女性や若者の支援と高等教育機関の機能強化」という形に改めています。

7-4については、もともとの指標は「博多区・中央区のクリエイティブ産業従業者数」だったんですが、7-3のほうでクリエイティブ産業事業者数を出しているので中央区・博多区だけ挙げるというのもおかしいだろうということと、ここはそういう場をつくっていくということなので指標として適切なものを挙げにくいということで、ここも指標を置かない施策としております。

66ページをお願いします。目標8で「国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている」ということで、「めざす姿」について少し表現をまとめてございます。

68ページの施策は、施策8-2に「活力創造拠点づくり」ということだけ簡潔に書いていたんですが、少し修飾語として「高度な都市機能が集積した」というのを追加しております。

施策8-6は国際貢献だけを書いておりましたが、「国際貢献・国際協力の推進」ということで言葉を追加しております。

70ページの施策の8-8については、少し指標項目の表現を見直しております。

分野別については以上でございまして、次に空間構成目標です。

空間構成目標のところは、大きく一つだけで、75ページです。図の南区の南部のほうに「長住・花畑」を掲げておまして、ここが全体的な配置からしても少し空白になっているのではないかということがございました。交通結節点として少し弱いので今拠点にはなっていないんですが、そういったところもすべきだというご意見を審議会でもいただきましたし、市民の方からもいただいております。我々のほうで少し長住の商業の集積の状況や文化機能、交通の機能などを分析いたしまして、ほかの拠点と同程度のものはあるということで、今回、地域拠点という形で入れさせていただきました。ただ、外環状道路がちょうど通ったりもしておりますので、長住から花畑のあたりまで含めた形で、「長住・花畑」ということで地域拠点として今回ご提案をしています。

次に、区のまちづくりの目標については、それぞれ個別のご意見があったもので反映すべきと思われるところについては反映しております。特徴的に、南区におきましては、97ページの目標の取り組みの方向性というところで、地域拠点として長住・花畑地域を追加しましたので、それに伴う表現を少し入れてございます。

100ページの城南区はもともと少し記述が少ないというご意見がございまして、わりとしっかりと全体的に見直して拡充をしております。

以上、長くなりましたが、一通りご説明をいたしましたので、ご審議いただけたらと

思います。ご説明は以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。パブリックコメントでいただいた件数は112件と数こそ限られていますけれども、これを見せていただくと、非常にいろいろな視点、切り口でご提案をいただいている、この総合計画の原案にそれをうまく取り込んでいただいたと思います。

今取り込んでいただいた内容ですが、それをどのようにこの原案を答申案に変えていくかということでこれからご審議いただくこととなります。進め方として、先ほど申し上げたように、三つのパートに分けます。0ページの総合計画の体系のところから始まって、32ページまでの基本構想・基本計画あたりで何かご意見はいかがでしょうか。特にここは、都市の成長とはどういうことなんだという戦略について具体的に記述をいただいたこと、あるいは、「リーダー都市」についての記述を加えているかと思います。先ほど、副部会長の池内委員が、7ページに挙げられています基本戦略の枠組みの絵についてコメントをされていたので、ここから審議をスタートしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○池内副部会長 では、私のほうからご意見を言わせていただきます。

7ページのイメージ図には、前は「人と環境と都市活力の調和がとれた都市」というのが上にあったわけですが、それが今回、9ページの最後の締め「アジアのリーダー都市をめざす」をつけ加えたがために、この上がなくなっているんですが、見せていただくと、イメージ図にメッセージ性がなくなったかなと思っております。実際は、9ページの下の方にこの「リーダー都市をめざします」ということで締めたほうがいいのか、それとも、私としては、ここはこことして、最初のところには前と同じ「人と環境と都市活力の調和がとれた都市」というのをもう1回上に戻していただいたほうが、何となくメッセージ性があっていいような気がしています。そのところを皆さんのほうで改めてご検討いただけたらと思います。よろしくをお願いします。

○星野部会長 ありがとうございます。答申案の7ページ目の図と、先ほどの原案の同じく7ページにある図表を比較すると非常にわかりやすいと思います。もともとの原案の図表を見ると、これを一つ見れば今回の総合計画がどういう考え方でつくられているかというのがわかるんですが、修正後の答申案の7ページ目ではメッセージ性が非常に弱くなっている。確かにご指摘のとおりかと思うんですが、これについてご意見いかがでしょうか。位置を変える、あるいは、もとに戻すのを含めて、これをもう少し全体のメッセージ性を高めるようなご意見がございますでしょうか。

○委員 連続2回ぐらい出席できなくて、申しわけございませんでした。

今、9ページの一番下を見ていると、福岡市としてリーダー都市をめざすというメッセージをすごく感じておまして、一番下のほうにいくとアジアにおける役割の内容等、わかりづらくなっているの、せっかくいいメッセージなので前のほうの一番上のほうに置いたほうがどうかと思います。もしくは、その後ろのほうにもうちょっと細かく一つの題名として挙げて、明確に、目立つように書いたらどうかと思います。

○事務局（藤本） 昨日議論の中で少しそこについてのご意見がありましたのでご紹介させていただきますと、タイトルがないものですからこの位置づけがわかりにくいのではないかというお話がございました。我々としては都市経営の基本戦略全体を繰り返して一つの文章で説明していて、全体のまとめというか、基本的な考え方はこうですというところですので、昨日の部会のほうでも、何か一つタイトルを付して、しっかり別の項目を起こしたらどうかというご意見をいただいておりますので、そういった形で検討していこうかなと思っていたところです。

○星野部会長 ありがとうございます。ご意見をお二人からいただきましたけれども、総合計画について、一冊全体を詳細に読まれることはないと思います。この図を見ながら、メッセージを捉えていただくとすれば、この部分を抽出してわかりやすく出していただくことが必要かなと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。今ご意見をいただくのは、繰り返しになりますけれども、32ページの目標の前までです。

お願いします。

○委員 今の意見に関連してですけれども、図としては前回のほうがわかりやすくいいように思います。これは個人としての意見です。

それと、前から思っていたのは、「アジアのリーダー都市」というのが今一つぴんときないんです。多分市長がおっしゃっているんでしょうけれども、「リーダー」という意味が、先進的という意味なのか、アジアを牽引していくということなのか、アジアの兄貴分的都市だという意味なのか非常にわかりにくいので、この辺ももうちょっと書き加えていただければありがたいと思います。

以上です。

○星野部会長 お願いします。

○安浦会長 どうもありがとうございます。「アジアのリーダー都市」のリーダーという言葉は、市長が政治家としてお使いになっている言葉であるということで、今までの議論の中でもあえて入れてこなかった言葉です。ただ、市長がそのメッセージだけはどこかに入れてくれということ強く希望されましたので、それならこの基本戦略の一番最後のところに、期待といいますか、ここで言う目標よりもさらに大きな願望的な意味合いで書くということであれば、リーダーという言葉を使ってもいいだろうと考えました。

リーダーという言葉の基本戦略の中に持ち込むというのは、私は絶対反対です。リーダーという言葉の意味はいろいろな捉え方をされる可能性があって、英語で言えばリーダー、フォロワーということで、俺はリーダーだ、お前らはフォロワーだということになります。ほかの人があなたがリーダーだと言ってくれるのはいいんですけども、みずからリーダーと言うのは、へたをするとほかの都市に失礼だし、ばかにされる可能性もあるということまで私は市長には申し上げています。

我々としては、そういう意味合いも含めて言葉は十分に慎重に使ってほしいということをお願いしているので、市のほうもかなり苦勞されていて、藤本課長、光山部長は非常に苦しんでおられる中で、「リーダー都市」というのを9ページの下のところに書き込んであります。表現はまだ少し変えないといけないかもしれませんが、経済規模で一番になるということではありません、経済的な成長と安全・安心、質の高いバランスのとれたコンパクトで持続可能な都市としてアジアに貢献し、目標とされるようになりたいというぐらいのことを書く程度に抑えてもらったところです。

そのときに、池内副部長がご指摘になったように、その上の「人と環境と都市活力の調和がとれた都市」まで一緒になくなったことがいいのかどうかというのは別の話なんですけれども、これが残っていると、市長が最後に強引にここに「リーダー都市」という言葉を放り込むのではないかという危惧があって省かれたのではないかと私は邪推しております。私は、市長とのお話の中で、「リーダー」という言葉についてはあくまでも基本戦略ではキーワードにはしたくない、「リーダー都市」というのは、その先にある、「さすが福岡だな」ということで、ほかの都市がある種のリーダーとして見てくれるように我々はなりたいんだという願望として表現したい、そういう言葉として使いたいということで、その表現が現在こういう形で出ているということです。

○星野部会長 お願いします。

○委員 最後はこの審議会は答申を出して、あとは市の内部での議論ですので、その最後の政治的な部分はある意味市に委ねることになるのかと私は思っていますけれども、

基本的な論旨としては、安浦会長のおっしゃったことに私は賛成です。

よそからどう見られるかというのは非常に実は私も気にしているところですし、それでいくと、各論ですけれども、25ページのMONOCLEの評価というのも実は私は外してほしいと思っています。要は市の市政の最上位にくる総合計画なので、情熱を持ち続け抑制されたトーンで書いてほしいときに、基礎データの話と市民の声というのは非常によくわかるんですけれども、客観性がほとんどない1メディアのランキングをここにどんと載せるということは、外から見たときに非常に軽く見られるのではないかと思います。京都の人が京都の歴史を自慢しないのと同じで、あえてわざわざここで言わない。あえて外部評価のことに言及されたいのなら、学問的にも専門家的にも一定の査読まで受けている、森記念財団が出しているGlobal Power City Indexのランキングを出すほうが意味があると思います。同じ趣旨なので、この答申というのは、外からの見られ方ということ意識して、抑制されたトーンであるべきです。

ただ、7ページの図は、上に将来像を置き直すということが、私はまず必須だと思います。また新しいメッセージが出てくると混乱するだけだと正直思うし、何で都市像に出てくる基本構想の中の都市像を書かないのかなと思うので、それを戻すことをあえて代案として出します。2ページの「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」ですね。これを言っている理由は、とかく仕組み論、プロセス論に逃げ込んでしまって、何のための対話、何のための交流というのが見失われて、対話そのものが目的化する、交流化する、このことに対する批判はいろいろなところが私は出ています。対話は必要不可欠なんですけれども、対話をして満足しておしまいというのでは意味がなくて、行動につながって創造まで行くということが、この都市がめざすべき目線の高さでしょうから、対話という言葉を入れておしまいではなくて、対話の結果をきちんと将来像の実現につなげていくんだという意味を見せるために、矢印を戻して、上に都市像のことを載せるということを提案申し上げます。

○星野部会長 ありがとうございます。今、非常にいいまとめ方をご提示いただいて。あと、この客観性ということ考えたときに、MONOCLEでたまたま評価されたからそのランキングを入れるとか、ブルータスで地方都市のナンバーワンに選ばれたことなどを入れたところで意味のないことだと思います。できる限り客観性を保ちながら、訴求すべきところは訴求するという考えで、まとめていただきたいと思います。

「アジアのリーダー都市」の福岡のめざしているリーダーというのは、リーダーシップ論で言うところのサーバントリーダーシップという考え方だと思います。サーバントリーダーシップとは、人の意見を聞き、それを共有し、自分の意見を明らかにしながらそれを概念化して共有していく、そしてコミュニティをつくるという考え方です。つま

り、今までのリーダーのように、強引に自分の考え方を掲げ、フォロワーをまとめるのではなくて、人に奉仕しながら理想に向けていくというのがおそらく福岡のめざすリーダーであって、それはサーバントリーダーシップという言葉で説明できるかと思います。会長の市長とのお話をお聞きしますと、おそらく今、「アジアのリーダー都市」ということを全くこの中から削除するということが難しいようですから、表現的にもう少し、奉仕しながら、貢献しながら他者から認められるという安浦会長の言われたようなことをもう少し厚くすることで、きちんと我々の考える福岡のリーダー像というものを描き出すということによろしいかと思います。

よろしいでしょうか。

○委員 はい。

○星野部会長 ありがとうございます。

それでは、ほかの部分でいかがでしょうか。お願いします。

○委員 7ページの図が文章の中のキーワードと対応するように、もう1回ちょっと検討いただけますか。図の中のキーワードと7、8、9のキーワードがちゃんと一致しているかということと、もう一つ、8ページの③は、図で言うと左の丸と右の丸が①と②なのですが、③がないんですね。私は、今、日本全体で大きな課題は、子どもたちや次の若い人たちを育てるという育成という言葉がすごく大事な気がしますので、もちろん多様性もあるんですけども、未来を見ながらということで、どこかに「育てる」や「子ども」など、そういう視点を少し入れてください。

それから、9ページの(2)の「広域」は、7ページでは(1)なんですかね。全体をまとめるという視点で、もうちょっと工夫があったらいいなと思っております。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。今、この一つの図をもう少し明確にして訴求するとなれば、当然、全体のエッセンスを取り込んだ図にならなければいけないわけですが、これを見ると、生活の質を①、都市の成長を②、人材の育成を③と置いているながら、図はこの二つの両輪と考えているという枠組みもそうですし、中で使われている言葉については、全体の整合性をとりながらキーワードとして入れていくということで、もう一度この図をつくり直していただくということによろしいでしょうか。

○事務局（藤本） 一応、③の人材のところは、二つの丸の下のところに入れている状態

になっているので、人材まではこの図の中にあります。中の表現はもう少し整理しますけれども。

○鍋山委員 育成がないんです。

○事務局（藤本） 追加します。

○星野部会長 そうですね。今さら生活の質部会と都市の成長部会で議論されてきたものに三つ目の丸を入れるという必要はないと思うんです。このように①、②、③と文章の中で記述しているのであれば、この三つがコアになるのかという印象を受けますし、それを踏まえた上でこの図をつくってください。委員が言われたように、このキーワードをきちんとこの中で押さえていただきたいということです。よろしくお願いします。

○委員 私はこれを、今さらということはあるんですけども、8ページの③は抜いたらどうかと思って見ていたんですよ。「人と環境と都市活力の調和がとれた都市」をもう一度戻す、これは賛成です。それで「人材の多様性、交流・対話、創造力」、これに「育成」と「集積」という言葉がないということだと思っんです。③のところへあえて入れているんだろうとは思っんですが、目標の中はかなり入っっていますし、前段でも「人材の多様性とその交流から生まれる創造力が必要であり」ということで、③が必要かどうかは今まで議論してこなかったんですけども、ここで③をすばっと除いたほうがすっきりするのかなと思っながら、今朝ずっともらった書類を見てたんです。

○事務局（藤本） ここについては、両方の部会で人材が大事ということとかなりご意見があったところです。

○委員 ええ、両方ありましたよね。だからあえてここの①、②、③という形で入れたんだよなと思っながら、しかしこの③は、生活の向上と都市の成長、基本戦略ということであるので、ここは外していいのではないかなと思っながら見ていました。

もう1点なんです、皆さんの中からも出ていて、今さらこういうことを言っってもあれなんです、基本計画の1、2、3、4、5、6ずっとある中で、ここだけ取っつけたように「都市経営の基本戦略」とあっって、言葉として見たときに「基本計画の目標」や「めざす方向性」という言葉のほうがいいのではないのでしょうか。これで行くということだったらこれで結構なんですけれども、ここも言葉を変えたほうがいいのかと思っながら今日見ていました。

○事務局（藤本） 考え方だけご説明しますと、人材のところは皆様からいろいろご意見がございましたので、それを踏まえたら我々として入れておくのかなとは思いますが、ほかの方のご意見もあるかと思えます。

「都市経営の基本戦略」という表現については、今まではこういったことについて「計画の基本的な考え方」などといった形で入れることが多かったのですが、そうすると非常にぼやっとしてしまいます。計画というのはどうしても全体計画としてこうやりますというものなのですが、戦略性を持ってやっていくというところがわかりにくくなるので、今回はあえて「都市経営の基本戦略」という表現にしています。

○星野部会長 今ご意見をいただいた基本構想、基本計画については、主に戦略の部分、あるいはリーダーの部分、こういったところが修正の中心になるかと思えますけれども、もう一つ、14ページ目に「持続可能な行財政運営」と入れていただきました。これは財政的な非常に厳しい状況等の中にきちんと押さえていただいたということで、追加をいただいてよかったかと思うんですけれども、これでよろしいでしょうか。

大体、前半で中心になる部分は以上かと思えますが、もしご意見がなければ、この後、33ページ以降の最も重要な分野別の目標に入りたいと思えますけれども、よろしいでしょうか。どうぞ。

○委員 すみません、一つだけ小さい話です。今日は多分代案なきことを言ってももう時間もないので、代案を出すという形で意見を言わせていただくので、後で取捨選択していただければと思います。

29ページの財政のことはすごく大事な話だと思いますが、下は市債残高の全会計が合算されていて、上は、義務的経費を出すためだからというのはわかるんですが、一般財源しかない。福岡市の全体の連結決算を意識しながら経営をしていかないといけないときに、その他の会計についての話が全く見えない。公営企業会計であったり、特別会計があるわけで、単にその事実だけでいいと思うので、目線を失わないようにするために、そのデータを入れていただきたいと思えます。

○事務局（光山） わかりました。ここには一般会計でもない一般財源の数字が出ていますが、一般会計の規模や、特別会計、企業会計など、そういった全体像をちゃんと押さえていく必要があるというご指摘だと思います。こういったものがありますというぐらいのレベルにとどまるかもしれませんが、少し整理させていただければと思います。

○委員　そういう意図です。国からの地方へのお金が配られなくなったら福岡市がどうなるのかとか、喫緊の課題、そういうことを、多分これからの福岡市の都市経営に関心を持つ民間は意識されると思うので、そういうことが今後議論される根拠になってほしいという意味で申し上げました。

○星野部会長　ありがとうございます。

先ほどの継続審議事項の中で紹介された、財政状況を数字であらわすべき、財政状況について福岡市を取り巻く状況で述べたほうがよいというご意見に対して、福岡市を取り巻く状況において記述を追加する一方で、今後の開発に伴う経費等について必ずしも記述されていないので、今の財政状況をここでもう少し詳しく挙げていただくよう、よろしく申し上げます。ありがとうございます。

○安浦会長　例えば、この「データで見る福岡市の推移」の21ページにある歳入の推移みたいなものを入れておけばいいということですね。グロスで8,000億円ぐらいですけれども。

○事務局（藤本）　今のそれは一般会計ベースですので、特別会計等も含めてお示しします。

○安浦会長　特別会計を入れるともっと大きくなるわけですね。

○事務局（藤本）　表現は検討させていただきます。全部の推移を示すものすごいボリュームになりますので、一般会計ではこうなんですが、特別会計というものがあって、全体枠はこれぐらいでとか、その全体像がわかる形で整理させていただこうかと思えます。

○安浦会長　はい。

○星野部会長　それでは、33ページからの、いよいよ第2章の計画各論にいききたいと思います。ここが先ほど申し上げた今日の審議のパート2になるんですけれども、私たちの部会が担当するのは、主には目標5、6、7、8になりますので、まず生活の質部会の担当されている目標の1、2、3、4について、ご意見があれば出してください。その前半をまず終えてから、私たちの担当する目標の後半にいききたいと思います。1、2、3、4で何かご意見がありましたらお聞かせください。特に、1番、2番、3番、4番

と追っていきませんので、1、2、3、4全体で何かご意見があればお出しいただきたいと思います。

○安浦会長 52ページの施策の4-1でエネルギーのことが書かれているんですけども、これの指標で「1世帯あたりの電力消費量」というのを削減して書かれているんですが、これは自分で発電して使う分はカウントしていないという意味で書かれているんですか。

○事務局（藤本） そうですね。

○安浦会長 要するに、売電で買う電力量という意味なんですね。自分の屋根で発電したやつで補うからこれくらい減らせるという見込みのつもりなのかという問いなんですけれども、今から電力というのは、九州電力だけではなくていろいろなサプライソースがあって、コジェネ（コジェネレーション、熱電併給）みたいにしてガス会社からガスで買って使うこともあり得るわけで、そういったものも含めているんですか。4割削減というのは、エンジニアリング的に見るとすごい内容の宣言ですよ。

○事務局（藤本） この数字が、九電さんの数字などではなくて、環境局独自の報告になっています。ここについては、数字をもう少し見直せないかというご意見が昨日も出ておりまして、ここについては再度見直す予定です。

○安浦会長 表現をはっきりさせないといけませんよね。要するに売電分が減るという話と、トータルで最終的に使うときに今電気になっていないものまで全部電気にして使うという話とがあって、電気の使用量という意味合いでは、総量は増えるかもしれないわけですよ。そういうことまで考えて、わかりやすい指標にしていきたいと思います。

○事務局（藤本） はい、検討します。

○星野部会長 お願いします。

○委員 今のお話の関連です。「1世帯あたりの電力消費量」という設定をするので今のような問題が出るんですけども、例えば、1世帯当たりのCO₂排出量のような、エネルギー源が何かであるかということとは関係なく、また、創エネのような再生可能エネルギーの導入の効果もカウントできるような指標にされるというのが一つの案かと思

ます。

加えて言うと、ここは「地球温暖化対策の推進」という言葉が入ったので、より包括的にCO₂のような温室効果ガス削減に対する取り組みというメッセージが出た訳ですが、今問題になっているのは家庭だけではなくて、業務用や輸送部門もCO₂削減がなかなか進んでいないということです。業務用ビルの省エネや、EVなど自動車の低炭素化も課題です。福岡もコンパクトシティで、まちの住みやすさといったことがテーマになっているのであれば、EVなど低炭素型自動車を増やすための環境整備に取り組むことも当然あるだろうと思うので、そういう領域での指標も加えられるといいのではないかと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。専門的な分野からのご意見でした。

○事務局（藤本） その指標については、昨日もご指摘がございまして、実際CO₂排出量という形でできないかというお話を大分しているのですが、九州電力さんのほうのCO₂の原単位の見通しがわからないなどといったところもあって、なかなか設定できないというところがあります。ご意見も踏まえて、できないかというのは再度検討はさせていただきますが、車のことなど、個別のやつをたくさん重ねると多くなってしまうので、適切なものを検討させていただきます。全てを網羅するようにすると、ほかのところもそうなんですけれども5個ずつとかになってしまうので、代表的なものということで、再検討させていただこうと思います。

○星野部会長 この目標年次までには七隈線の延伸ということもあるわけで、そうだとすると、このコンパクトシティとしての考え方の中で、ぜひ何か入れていただければと思います。

今後、総会があるわけですけれども、昨日開催された生活の質部会のほうで、特にこの1から4の目標の中で大きな修正のご意見が出されたところなどがあれば、お話しただけですか。きちんとそれについてもここで審議をして、全体会に持っていければと思います。

○事務局（藤本） 34ページ、1から4についてですが、昨日、目標1の女性に対する暴力という表現が女性と特定するのはどうか、男性に対するということもあるのではということだったんですが、現実には女性の被害が多いので女性とするべきであるというご意見がございました。

38ページの施策の1－8、若者の社会参加についての記述をもう少し充実させてほし

いというご意見がございました。そのような形で対応していこうとしております。

42ページの「NPO、ボランティア活動の活性化」の指標について、今の「福岡市内のみに事業所を置くNPO法人数」というのは市が所管するところだけで、県所管、国所管のところが入っていないので、それを入れられないかというご意見がございましたので、その方向で検討中です。

あと主なところだけいきますと、46ページ、施策3-3で、「良質な住宅・住環境の形成」の高齢者向けの住まいの割合、これは特殊な緊急通報装置などのついている住宅等まで含めての数字で、3%、4%みたいなことになっているので、適切な指標について今検討中です。あと、電力について先ほどご指摘があったようなお話がございました。大きなところはそんなところですよ。

○星野部会長 ありがとうございます。今お聞きすると、生活の質部会のほうでは、昨日、1から4の中で大幅な見直しはなかったということですね。

○事務局（藤本） はい。

○星野部会長 わかりました。

今、1から4までの間で何かお気づきになられたところはおありでしょうか。お願いします。

○委員 先ほどの「女性に対するあらゆる暴力を根絶するとともに」というところで、例えばこれは子どもに対してということは、子どもが健やかに育ちなど、その辺のところでは入ってこないですかね。

○事務局（藤本） 子どもへの虐待防止みたいなことは、38ページの施策1-7には、児童虐待ということで施策側には入れています。「現状と課題」のほうでは、直接虐待ということでは今入れておりません。

○星野部会長 今の委員のご指摘ですけれども、ここの「現状と課題」の②というのは必ずしも女性を対象としているものではなく、人権ということですので、DVの対象となる子どもの虐待も含めていただいたほうがいいかもしれないですね。

○事務局（藤本） ②のところに入れるか、実際子どものところが7や8などといったところですので、どのあたりに入れるか検討したいと思います。

○委員 どこかで入れていただくように検討いただければと思います。お願いします。

○星野部会長 どうぞ。

○安浦会長 53ページの施策の4－6なんですけれども、「ストックの活用」が何か突然出てきたような印象があります。原案は弱い表現だったのは認めますが、今度はえらく具体的というか。50ページの中での表現とちょっと距離があるような気がするんですよ。これが大事な話であることは認めるんですけれども、「ストックの活用」であれば、その保守の問題や、一つは、都市インフラを安定的に維持するという問題までつながっていくと捉えることもできるわけですよ。そういう趣旨で書かれているのか、にぎわいを高める人集めの施策というぐらいの気持ちで書かれているのかにもよるんですが、その辺はどうなんですか。

○事務局（藤本） 「ストックの活用」のところはもともとエリアマネジメントを中心に書いていたんですが、エリアマネジメントというのが、にぎわいというより都市の価値を上げる際、つくるというのではなくて、いわゆるマネジメントする——使い方を考える、管理してその地域の価値を上げていこうという趣旨です。それはエリアマネジメント組織というところに着目するとエリアマネジメントという表現になるんですが、今あるまちを生かして、その使い方に工夫によって価値を上げていこうというところでこういった形にしております。都市基盤の50ページのほうの「ストックが上手に長く活用され」というところについては、先生がおっしゃったように、少し都市基盤の継続的な維持管理みたいな趣旨も含んだ、めざす姿になっておりますが、そちらの中身については、46ページの「安全で快適な生活基盤の整備」のところにその維持管理まで中身としては含めているので、施策としては、4－6としては実際の今あるまちをどううまく使うかということで、エリアマネジメント団体や公共施設、例えば道路や公園の使い方を考えることでその地域の価値を高めていくといったことで、今回このような表現にしております。

○星野部会長 パブリックコメントで、もともと「地域や場所のマネジメントによる都市の価値の向上」という意味がわからないということが寄せられて、「ストックの活用による」ということになったわけなんですけれども、これだけを見るとかえってわかりづらくなっていて、「ストックの活用による都市の価値の向上」とは何を意味するのかがよくわかりません。都市基盤を使いながら都市の価値を高めるということを専門家としてど

のように委員はご説明いただけますか。

○委員 今、どういう改善を文章に加えたらいいいのか考えていたのですが、ちょっと悩ましいです。下の文章では都市の「価値や魅力を高め」となっており、「魅力」だけのほうが意味はわかりやすいと思いますが、あえて「価値」を入れたところがみそなのかなと思っています。ただ、「価値」というからには何らかの指標項目も立ち上がっていないといけないと思いますが、それが今思いつかないでおります。あえて「価値」という言葉を強く使おうとされているのであれば、もう少し補足していただいたほうがよい気がします。

○事務局（藤本） 魅力というと、どうしても少しふわっとしてしまうところがあって、エリアマネジメント団体などが立ち上がっているところは、地域の価値をみんなで上げていこうという目的で集まってやっているところもございますので、そこにこだわるわけではないんですが、書いている趣旨としては、地域をつくり変えるのではなくて、使い方を変えることで価値を上げていこうという考え方を出すべきかなということで、案としてはこのようにさせていただいているところです。

○星野部会長 これも、以前はちゃんと「都心部は賑わいがあり、訪れたい魅力があると感じている市民の割合」という指標が設定されていたんですけども、パブリックコメントによるとこれはかえってわかりづらいということで、削除されたという経緯があると思います。設定されていた指標は、「都心部は賑わいがあり、訪れたい魅力があると感じている」というのは、例えば、外の方の目で訪れたいのか、市民の目線で訪れたい魅力なのか、非常にわかりづらくて、それで削除に至ったかと思うんですけども、何かこれに適切な指標というのはつけられないものなのか。今の部分を整理しながら、住んでいる人が都市に魅力を感じるような割合というのを何か指標として設定できないんですかね。

○安浦会長 おととい、先生が立ち上げられたUDC Iというアイランドシティのアーバンデザインセンターがめざしているものとは、まさにここですね。だから、そういうものも立ち上がって福岡市の施策としてやられているわけですから、例えば、アイランドシティを一つのベンチマーク地域として例示するのも一つの手かもしれないですよ。

○委員 都市の価値というのわかり難いのですが、地区の価値を向上させると言うのそれぞれが頑張るエリアマネジメントの活動と結びつきやすいかと思っています。

「都市」というと福岡市全体のことを指しているようなイメージがあり、限定した地区あるいは地域の活動だけではなかなか手が届かないスケールの価値と受け取れるので、地区や地域の魅力を高めるために地区独自の取り組みを支援していくという主旨の文章にすると、焦点が絞られてきて分かり易い気がします。また、安浦会長が言われたように、例えば、指標としてエリアマネジメント組織が立ち上がっている天神や博多、あるいは、アイランドシティではアーバンデザインセンターを立ち上げていただきましたけれども、そういった地区を一つのベンチマークとして指標化してみるというのはあるのかもしれない。住みたいという魅力がどれだけ向上したかといったアンケート調査で見たり、来街者数を指標化したりできるのではないかと思います。

○星野部会長 都市として捉えるのではなくて、地区として考える。それがもしかしたらこの一番最後にある区のまちづくりの目標とうまくつながってくるのかなと思いました。事務局はそれでどうですか。

○事務局（藤本） 地区という方向で、あとは数字については、現状で置けるものがあるかどうか検討してみたいと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。

○委員 使われているということが非常に重要だと思うので、空地、空室、空き家というのは私は重要な指標だと思います。それは地区単位はなじまないと思って議論を聞いていたんですが、多分、住宅の10%ぐらいは空き家——もっとかもしれませんが、これは実は日本中の深刻な問題ですし、朽ちるインフラ問題もあるので、使われない橋、使われない道路、使われない住宅、使われないオフィスビル、土地を減らすということは、一つ指標としてきちんと掲げていただけないかなと思います。

それで、多分、地価、賃料という話は、民間から見るとそれこそが最終の評価指標、厳しい市場の評価で、資産価値がどれだけ下がらないかというときに地価、賃料というのは間違いなく重要ですが、おそらくそれは行政がコントロールできる余地が非常に少ないと思うので、あえてそれは載せないことを提案します。

○星野部会長 そうすると、先に言われたので、例えば、空室率というのはもちろんネガティブな表現なので、むしろ満室率か何かにするんでしょうけれども、そういったものをここに載せるというのはなじむんですかね。つまり、必ずしもその土地、地区に魅力がないから空室が発生するというわけではないですよ。

○委員 適切にストックが活用されているかいないかというのは、結果としての入居率に反映されると私は思います。過剰供給なストックは壊すべきであり、用途指定が違っているのであれば、使われるように用途指定を転換していくということも行政が考えられる選択肢の一つだと思います。

○星野部会長 事務局のほうでご検討いただくということによろしいですか。

○事務局（藤本） はい。

○星野部会長 ありがとうございます。

それでは、目標の1から4まででほかにご意見いかがでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

○星野部会長 もしなければ、これからいよいよ我々の本番に入るんですけども、ここで5分ほどブレイクをとりたいと思います。休憩していただいて、あるいは席にいらっしゃる方は少しここからの目標5から8までをごらんください。ここから、これがおそらく最後の本格的な審議になるかと思います。

では、15分まで7分間ブレイクにしたいと思います。

（ 休 憩 ）

○星野部会長 それでは、再開させていただきます。

54ページからの目標5以降は、私たちの部会で特に固めなくてはいけないことなので、目標一つずつ行きたいと思います。

まず、目標の5についてご意見いかがでしょうか。「磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている」という目標の5について、ご意見いかがでしょうか。これは若干パブリックコメントを反映させていただきましたし、指標のほうでは少し記述が入りました。

5-2はまたセントラルパークという言葉が復活しましたね。たしか、これはなじみがないということで消していたはずなんですけど。

ほかにご意見いかがでしょうか。目標の5です。

○委員 54ページの2の現状と課題のところの①、②で、クルーズ船と新幹線について触れられているんですが、「さまざまな人がひきつけられている」で観光客を呼び込むと

いうことも入っていると思います。飛行機というか、空からの便についての記載とか、どこかにあればというか、つけ加えていただきたいなと思うんですが、どうでしょうか。

○星野部会長 そうですね。日本で最も利便性の高い空港と言われている空港について記述がないですね。

○事務局（藤本） ゲートウェイの記述については、空港・港湾機能が目標8のところにまとめてあります。この中で、博多港はいわゆるクルーズ船ということで出していて、新幹線についても鹿児島ルートの開通ということで特出しして書いていて、ベーシックには目標8でゲートウェイ機能という形で整理をしているところです。

○星野部会長 それであれば、目標8では具体的な輸送モードを明示することに対して、目標5であくまでも一般論ですので、クルーズ船だけを特記することもないと思いますし、あるいは逆にクルーズ、新幹線、航空機などを列挙するのかがどちらかではないでしょうか。

○事務局（藤本） クルーズ船については、今力を入れているところで、施策の5-6のところでもクルーズ船の寄港回数というのを挙げております。ある意味、観光の目玉としてのここで挙げさせていただいているところです。ただ、8の空港とかの記述が若干弱目ではあるので、そこは少し充実はしたいと思います。

○星野部会長 よろしいでしょうか。

○委員 はい。

○星野部会長 お願いします。

○安浦会長 55ページに観光客数とホテルの客室数が書いてあるんですが、結局、ビジネスで来る人がどんどん増えているからホテルの室数は増えている、でも観光客は伸びていないんだということをあらわす図になっているんですね。下手な読み方をすると、需要がないのにどんどん建ててバブっているのではないかと読む人も出てくるので、この図は何を言いたいかというのをちょっと明確にしておいたほうがいいと思います。ほんとうにホテルの客室数を入れる必要はあるのかどうか検討ください。

○星野部会長 いかがでしょう。

○事務局（藤本） 検討させていただきます。

○星野部会長 はい。

○委員 56ページに750万人、宿泊者を増やすということと、たった2万何千しか部屋がないからそれだけしか泊まれないということの認識は要るでしょうね。それと、インターナショナルのホテルがほとんどない、そういうのが要るということも課題として出しておかないといけないかなと思いますね。ないと、いくら泊まれるのかわからない。10年後に精査中の750万人ということが56ページにあるから、それはそれでいいような気もするんです。

○事務局（藤本） 逆に数字だけぼんと置くというよりは、課題としてちゃんと書きつつ数字を書くような形にさせていただこうと思います。

○星野部会長 つまり、今は需要をかなり上回った供給があるけれども、今の目標数値で挙げられているような観光客が訪問するとなると、その需要と供給がほとんどバランスしていくかもしれないと考えれば、これを入れておいてもいいのではないかというお考えですよ。

○委員 現状をどんなふう把握されているのか、もう一回確認させていただいてもいいですか。要するに、福岡市は、前にオリンピックを招致したときとかも、ホテルが圧倒的に足りないとか、民間使用で聞くと、山笠だとか何かイベントがあるときはホテルが満室だとか言っているんですけども、実際はどうなんですか。

あと、10年後を今話し合っているんだけど、話に出ている観光クルーズの見通しです。10年後も観光クルーズがほんとうに来るのか。今、政治問題だ何だと言って、今年もまた減っているんだけど、その見通しについて現状を確認させていただきたい。すみません、余計な時間をとらせませんが、1点お願いします。

○事務局（藤本） ホテルについては、おっしゃるとおり、何かあるとき、それこそ山笠のときもそうですし、大きいコンサートがあるときとかは全然ホテルがとれないという話を聞きますので、基本的には、ピーク時には室数が足りていないと認識しております。あと、国際的なクラスのホテルがないのではないかと、いわゆる、安いホテルは

あるけどクラスの高いホテルがないのではないかというようなご指摘もよくいただくところで、実際に、海外からどんどん観光客を集めていく際には課題だろうと認識しています。ボリュームとしてどれぐらい足りている、足りていないについては今持っていないのであれなんです、そういうところです。

クルーズ船については、今政治情勢があって少しキャンセルが出たりというのもございますが、長期的にずっとそうだろうと見ているわけではなくて、ある程度はこちらとしてはどんどん誘致していくような形で進めようとしているところです。

○委員 要するに私が申し上げたいのは、福岡市がホテルを建てるわけではないので、民間市場に任せる部分ですから、その辺の市場調査とか、今後建てる計画とか、そういうのはどんなふうに把握しているんですか。

○事務局（藤本） 今、直接の担当がおりませんので、すみません、私のほうではわかりません。

○委員 わかりました。

○星野部会長 今、ご指摘があった点について、まさに現状と課題として今分析されたことをもう少し詰めてください。ここには福岡市の観光客とホテル客室数というチャートだけが載っているわけですけど、もしそこに課題があるのであれば、課題としてこれは記述いただいたほうがいいでしょうね。その上で、この図表を載せていただければと思います。ありがとうございます。

○委員 今、安浦会長が言われたホテルの数です。数字でしか物を見ることができないから言わせていただくと、ここに精査中と※印がついていますが、750万人という目標値が仮にあったとしたら、365で割れば1日2万人という話になるんですよ。そういうことを考えたときに、結局、750万人を単純に1日平均にすれば2万人になるんだけど、例えば、イベント事とかがあってもホテルが全く足りなくなるというような状態が起こらないようにならないと750万人というのはクリアできない話になるわけですよ。ここにグラフがあって、こっちに施策のそれぞれの目標値みたいなのが書いてあります。この構成の仕方にけちをつけるわけではないんですけど、「観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ」の下の部分にホテルの概要数とかがあって、750万人をめざしているんだから、1日にこれぐらいホテルの室数がないといけないんだよという目標設定みたいなものが具体的に示されれば、実際のところ、私たちもわかりやすいなと思うんです。

それと、先ほどの空路の件に関しても、結局、目標の5というのが、「磨かれた魅力に」ということですから、これは都市の魅力をいうわけです。目標8というのは「国際競争力を有し」だから、いわゆる空とか海といった道筋というかですね。だから、テーマが違うから、ここは現状と課題というところで空港という言葉が入っていないといけないということだったと私自身は思うんです。だから、これはここまでの範囲というあたりを明確にする。ほんとうはかぶっていく部分はあっていいと思うんですけど、そのあたりを具体的にもっとわかりやすくしていただきたいと思います。

以上です。

○星野部会長 おそらく最後の部分については、実は5と8はちゃんとすみ分けできているんですけど、今クルーズ船というのが非常に観光の目玉なんで、あえて5の中に入れてしまったというご説明でしたよね。

○委員 もう一つだけいいですか。先ほどの藤本課長のお話ではないですけど、コンサートがあるということで、実は今年の8月25日にSMA Pのコンサートがあつて、部屋をとってくれと頼まれました。頼まれたけど、全然あいていませんでした。ホテルを10カ所ぐらい当たりましたけど、どこもあいていない。何とかビジネスホテルの喫煙室が3室だけとれたんです。だけど、これはビジネスマンの方が使うためにホテルがどうしても必要だというところ無理を言って頼んだ。そういうところしかないということは、いわゆるおもてなしという感覚でいったら問題ではないでしょうか。たばこを吸われない海外の方の割合は日本人に比べたら多いということなどを考えると、もっとホテルが必要なのかなという気はします。

以上です。

○星野部会長 SMA Pのコンサートのときというのは、毎年ホテルが満室なんですよ。ただ、ホテルは100%が満室なんではなくて、企業によって考え方がいろいろありますけど、82%を超えるとほとんど満室の状態に近いという考え方をされる。そうすると、問われるのは中身なんです。先ほど言われたように、例えば海外から来られるビジネスマンが泊まるホテルがないだとかあるので、もう少し分析をしていただいて、それを課題として入れていただければと思います。ありがとうございます。

目標5、よろしいでしょうか。

○委員 2点ございます。どちらもエリアの大きさの話です。

一つは、福岡市単独ではなくて、少なくとも都市圏、あるいは九州と連携しないこと

には、多分人を引きつけるのは難しいのではないかと思います。これを何で言っているかという、F D Cと観光部会と福岡市さんの経済観光文化局と連携していろいろ議論をしている中で、F D C側の議論が今そんなことを言っているからです。そのときに、目標5の冒頭の「めざす姿」のところを読んでも、戦略的なプロモーションは都市圏や九州と一緒にやると書いてあるんですけど、魅力づくりや受け入れの資源の磨き上げを福岡市単独で頑張りますというふうに私は読んでしまっていて、太宰府や宗像、糸島など周辺のいろいろな魅力あるところとの連携というのが読み取れません。プロモーションの頭に「都市圏が」とかかっていますけれども、その前の資源の磨き上げも「都市圏等と連携して」という言葉が入るべきではないかと思いますので、まず一つ提案です。

施策5-1も同じで、ここはそれを受けてなのでまあいいかなと思いつつも、「福岡市が有する」「福岡市の貴重な観光資源」で、全部福岡市なんですね。ここも、実効を上げていくためには、福岡にたくさん魅力があって、それを磨いていかないと始まらないんですが、それだけでは弱いのではないかとまず考えます。

それから、もう一つが施策5-4です。M I C EについてはまさにF D Cで一番議論をしている中で、都心全体、あるいは都市全体で受けとめるというのが根底の考え方だというふうに内部では議論をしています。そのときに、コンベンション機能はウォーターフロントだけではなくて、展示場や国際会議場は確かにウォーターフロントにありますが、実は百道のヒルトンほか、都市内のホテルもすごく重要なコンベンションの拠点であると思います。この文章では、まるでウォーターフロントにしかコンベンション機能が向こう10年ないように読めるので、かかり方が「コンベンション機能を強化するため、ウォーターフロントに集積するゾーンに新たな展示場」というんだったらわかるかなと思います。頭にこれが来てしまっているのが気になります。

それから、その2行目も、「市内の」というのがまず来てから「大学、施設、ホテルなどと連携」なんですけど、これが市内だけでいいのかというのがもう一点気になります。目線として、少なくとも都市圏単位で考えた上で、その中で中心に位置する福岡市としては、市のことをちゃんとやりますというたてつけに直していただくことをご提案申し上げます。

○星野部会長 藤本課長、いかがでしょうか。かつて、J Rが三都物語という非常に見やすいメッセージを発信し、京都、大阪、神戸を連携させながら売り込んでいくという、ああいう考え方ですね。それがこの中では見えていかない。あるいは、M I C Eの重要性については、随分今までこの中でもご発言いただきました。それをもう少し中に反映させてはいかがでしょうか。

○事務局（藤本） ご指摘を受けて、修正の方向で検討いたします。

○星野部会長 ありがとうございます。

それでは、もし目標5がよろしければ6に入りたいと思いますけど、よろしいですか。

では、目標6、58ページは、「経済活動が活発でたくさんの働く場が生まれている」です。これは、雇用という言葉で「働く場」に今回変えたわけです。6と7の関係というのは、6では経済活動全般について説明をし、特に、目標7では新規の事業、新たに多様な人材をもって立ち上げるという分け方だったと思います。

目標6でご意見はいかがでしょうか。

○委員 女性の就業機会とか社会進出に関しての意見を言わせていただきたいと思います。

58ページの「めざす姿」のところでは、「若者、女性、高齢者、障がいのある人がいきいきと働いて」とか、その次の現状、課題、59ページの上のところでも、障がい者や中高年、女性の就労支援の充実も課題という認識が出ていて、女性という単語は結構出てきますけれども、実際に施策と成果指標の中に、女性の活躍支援に関する取り組みを強めようというメッセージ性が読めないところが非常に気になっています。

実際、例えば61ページの施策6-5に就労支援の充実ということで、働く場が増えたかどうかというのがここに出てくるんだと思います。この施策の方向性は、「若者や中高年、障がいのある人など」となって、女性が消えています。また、指標に関して言うと、女性特有のものはここに出てきていません。女性に関する部分の指標としては、先走りますけれども、64ページ施策の7-5で、あえて限定化されてチャレンジする女性の支援ということで、起業家に占める女性の割合という以前からの指標だけになっています。

先日、全体の総会するときにも、成人のあらゆる年齢で、男性より女性の数のほうが多いという福岡市の実態を見た中で、例えば女性が一旦育児に入って、その後職場復帰するとか、そういったことの必要性というのは現状認識として全ての委員が思ったのではないかと思います。以前も言ったと思うんですけども、そういったことに対する取り組みや施策というものにつながるような成果指標というものが要と思っています。例えば、企業や行政の場で意思決定に参画する、いわゆる管理職のような女性の割合を増やすという指標を載せていただきたいという思いがあります。

実際、ここにそういう施策とか指標が載らないと、この後個別施策においていったときに、例えば保育所を充実させるとか、両立支援に取り組むという支援が強化されないのではないかと不安感があるというのもあります。以前、管理職比率などの指標は数値把握が難しいとのご説明でした。行政はカウントできると思いますし、企業でも、

例えば大企業、中堅企業、中小企業など従業員数の規模とかのランクを分けて、それぞれのランクで何社かずつランダム抽出をして、その中で割合をとっていき、それを何年かごとにやっていくというアンケート調査のやり方もあるのでないかと思います。そういったことも含めて考えていただければと思います。

○星野部会長 これについては、繰り返しご指摘いただいていた。別の委員からも具体的に、九州の女性の管理職の比率が非常に低い、そういうものを何か出せないかと言われて、藤本課長からなかなかそういう数字がないというお話をいただいていた。結局、この中から、例えばサポートする仕組みだとかが施策から全て指標がなくなってしまうと、高めていくという努力もされていかないと思います。安浦副学長の前で何ですけど、九州大学は女性の教員の比率が全国平均よりも低い。それで、全国平均が何%で現状が何%だから設定目標を何%にするという女性の教員を増やすような仕組みをつくっている。これも、そこに施策があつて初めてそこに到達することが考えられるので、何か入れることはできないですかね。委員から今ランダムというお話をいただきましたけど。

○事務局（藤本） 施策の方向性の中で女性が落ちているところについては、こちらの整理で今の男女共同参画の側にそこを含めているんですが、ここに女性を入れますので、施策として、女性も含めて就労支援を充実しますということは入れたいと思います。ただ、数字については、申し上げておおり、今現在、いわゆる答申としていただくときに現状値として出せるものがあるかどうかということで、再度考えてみたいと思います。これは、実は昨日もご指摘をいただいています。

同じことでいうと、若者や中高年者を全部並べるかということになりますので、代表的にいうと、例えば、就業機会の多さということになるかと思います。その指標については検討させていただけたらと思います。

○星野部会長 これも以前お話ししたかと思いますが、ダイバーシティ・マネジメント、多様性のあるという考え方であれば、一般的には、年齢や人種、宗教ということですけど、日本ではまず女性ですよ。もちろん今言われたように、それであればいろいろな指標を並べなければいけないということですけど、まずは女性の進出について考えられるような指標を載せるなり、考え方をに入れていただくということではいかがですか。公平性に従って全部入れていただく必要はないです。

○事務局（藤本） 数字については、可能な数字があれば入れたいと思っているんですが、

我々も別に入れたくなくて入れていないわけではなくて、適切な数字がなくて今入れられずにおりますので、引き続き探したいと思います。

○星野部会長 二つの部会から要請がありますので、ぜひ探していただければと思います。目標6、いかがでしょうか。お願いいたします。

○委員 今から10年という期間でいうと、エコノミストみたいな人たちが、輸出が厳しい等いろいろな足かせがある中で、特に小さな、数人でやっているようなスモールビジネス、コミュニティービジネス、例えば東京だと三鷹SOHO、あるいは広島でもそういう活動が今広がっております。そういうところは、結構女性の方がインキュベーターで入って育てたりしています。働く場について何かそういう表現、スモールカンパニーのような組織が増えていくというあたりを書き込んでいただければと思ったりします。以上です。

○星野部会長 目標6と7のすみ分けで、確かに6のほうで働く場が生まれているということであれば、SOHOもそうですし、コミュニティービジネスもそうですけど、それは目標7のほうで取り出してはいかがでしょうか。目標6、よろしいですか。先ほどの件で何かあれば追加していただいて結構です。よろしいですか。

○委員 施策6-2に、「都心」という言葉を入れていただきたいです。要は、企業をどこに誘致するかというメッセージの最上位にこの総合計画が来るときに、すごく具体的に、立地交付金制度とかグリーンアジア国際戦略総合特区とか書いてあるところで、さらに場所がアイランドシティとどんと出ている。諸事情を考えるとわからなくはないのですが、誘致される側から見たときに、そこしかないのかということです。「など」と書いてあるのではないかといえば書いてあるんですけど。

FDCの内部でも、基本的にはまず都心が一番ポテンシャルが高くて、そこで支え切れないいろいろな新しい、大規模な土地が必要なものなどが、今回の空間別でいっても出てくるほかのところ——ICや伊都、百道に行く、そういう順番で考えないことには、多分現実のビジネスの多様性に対応し切れないのではないかという議論をしています。そういうときに、消してくださいとは言わないので、「都心」と書いていただけないでしょうかということを具体的なお願いとして申し上げます。

○星野部会長 藤本課長、よろしいですか。光山部長いかがでしょう。

○事務局（光山） 都心そのものについての機能強化は8-1の部分で少し書かせていただいています。ただ、今、委員のご指摘は、まさに企業誘致のためのインセンティブを都心というところに集中すべきというご意見でしたので、そこは立地交付金も含めて、どういうふうにやっていくかという検討が必要になりますので引き取らせていただければと思います。ご指摘はもちろんわかります。

○安浦会長 委員はアイランドシティを消せと言っているわけではないんでしょう。「アイランドシティや都心など」というふうに入れてほしいといことですよ。

○委員 そうです。もっと言うと、すみ分けが必要だということです。実はFDCの中の議論では、博多と天神のすみ分けすら必要だと思っています。それを踏まえると、あまりに多様性がない表現はいかがなものかと思っていますので、マーケットから見たら最上位のポテンシャルがある「都心」というキーワードは入れていただきたい、追加していただきたいということです。

○星野部会長 今回の件について、ご説明いただけますでしょうか。

○事務局（経済観光文化局） 経済観光文化局です。多分、これは立地交付金とグリーンアジアのことを先に出しているのようになってるんですね。そういった形で、都心というものが、具体的には交付金については、記載されている地域より額が低いことや特区の対象にならない、そういったことから来ているものだと理解しておりますが、ご指摘はおっしゃるとおりだと思いますので、表現の方法を工夫させていただきたいと思えます。

○星野部会長 ここだけ非常に具体的な話が書かれていますので、少し見直していただければと思います。ありがとうございます。

それでは、62ページ、目標7、「創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している」。ここには、先ほど委員の話をいただいた、SOHOのような新しい立ち上げ方もあって、そのあたりについて書かれているのが目標7ですけど、これについてご意見いかがでしょうか。

ここは、以前、専門学校についてもう少し表の中に入れるという話があったのではないかなと思うんですね。今日のご欠席ですけど、委員が、例えばコンテンツ産業にしても、こういう専門学校の集積があって、人材があって、そしてゲーム産業が起きる、そして、

東京にあるプロデューサーのような機能が来てコンテンツ産業が発展するというお話をされました。人材、産業、それからそれをバックアップする仕組みがあって初めてそうなるということだったと思います。「多様な人材」の中で、大学だけではなく、多様な人が集まり交流する場として、専門学校が存在というのは非常に福岡で大きいのではないかという話があったと思うんです。これが、今この中に入っていないように思うんですけど、いかがでしょう。

○事務局（藤本） ご指摘いただいた際に、62ページの⑤のところで専門学校がありますという現状の記述をしました。そして、64ページの今回高等教育機関と表現したところは、いわゆる高校より上の専門学校と大学というのをくくって一応高等教育機関という言い方をしています。施策の方向性でも、大学や専門学校などのということで入れさせていただいたつもりです。

○星野部会長 ただ、専門学校の数とか集積についてデータを取り寄せていただくという話があったように思います。福岡は非常に多いですね。

○事務局（藤本） 現状のデータを整理して記載するようにしたいと思います。

○星野部会長 そうですね。全国平均だとかとの比較も含めて探していただけますでしょうか。

○事務局（藤本） わかりました。

○星野部会長 お願いします。

○安浦会長 今のことに関連するんですけども、62ページの⑤には、大学、専門学校ということで一応書いてありますが、大学や専門学校は、ゲーム、デザイン、ファッションだけではなくて、ありとあらゆる活力のもとなわけなんですよ。それを、7-5の女性や若者の支援というのでくくってしまうのはもったいなくて、そういう大学や高等教育機関の集積を強化するというのを施策にすべきではないんですか。今あるものを機能強化するぐらいではなくて、少子高齢化だから今から潰れていく方向にはあるんですけども、減っていく方向を、日本の中ではここだけは増やすぐらいの心意気でやらないと、若者人口の維持なんていう部分につながらないわけです。そこのところはもう少し強いメッセージを出して、施策で独立させてほしいなという気がするんです。

○事務局（藤本） 先生から何度かご指摘をいただいたところではあるんですけども、この高等教育機関のところは、直接市がやるのではないということがあります。実際に高等教育機関の機能が非常に重要というのは認識しているのと、実際、大学、教育機関のほうでしっかりやっただいていてということと、あと、九州全体で見ると、福岡に若者をとられているという指摘もあったりします。機能強化というのは、頑張っって強く書いたつものところで、集積を強めるというふうになると、完全に持ってくるなりつくるなりという表現になりますので、そこまでやると言い切れるかどうかは苦しいところがあって、このような表現にさせていただいているところです。

○星野部会長 どうぞ。

○池内副部会長 すみません、私も安浦会長のご意見と一緒にです。全体的にいて、人材育成ということが最も大切なんだけれども、その育成と女性と若者とが、何となくごっちゃにして明確ではないんですね。

戻りますが、38ページの1-7と1-8については、1-7は、ほんとうに女性たちの支援になって、子どもというよりも、働きやすい職場、女性のワークライフバランス推進なんですね。次の下のほうは、子どもの育成なのか、若者の育成なのか。ここはほんとうは二つあるべきではないかなと思うんですね。次、64ページに来ると、育成と支援が一緒になっています。多分、先ほどお話にありましたように、質と成長という部分で根本的に必要なのが育成だと思うんですが、そこが何となく薄いですよ。先ほどの教育機関について市だけではできないという部分では、やっぱり連携だと思うので、連携強化での教育という部分をもう少し明確にさせていただけたらと私も思います。

以上です。

○星野部会長 おっしゃるとおりで、先ほど、7ページの図と8ページの話をしたときに、生活の質の向上と都市の成長と人材の育成と集積というのは、三つ目こそ入っていないものの、実はこのトライアングルぐらい重要であるという話をされました。だとすると、この人材と育成と集積というのが目標7にきちんと押さえられているべきです。先ほどの話のように、確かに大学というのは、市と関係なくここに立地をしているわけですけど、その集積したもので産官学の連携をすることについては、福岡市でもかなり積極的にやられています。そうであれば、その部分をもう少し厚く書いて、集積度を高める、そして人材の育成というものをバックアップするということを入れることは可能なのではないかなと思うんですね。

○事務局（藤本） 今、ご指摘のところ、施策の1－8との整理との関係です。このところは、子育ては1－7にあって、1－8がいわゆるベーシックな教育のところですか、引きこもりなどいろいろな困難に当たっている若者、そういったところまで含めています。子どもから若者まで引き続き、ちゃんと社会に出ていけるようにするというベーシックなところが1－8で、子どもから若者まで、しっかりそういった形で育てますということです。

7－5のところは、施策の7が創造的活動ですので、創造的活動に踏み出すような人材ということで、1のほうとは分けています。あと、育成というところと、大学について、産学連携は別のところを出たりしていますけども、実際、おっしゃるように重要なところですので、ここは分けることも含めて、再度検討させていただこうと思います。

○安浦会長 福岡市が一生懸命やられたので九大は伊都に移ったんで、そうでなかったら他に行っていますよ。そうしたら大きく変わっていますよ。

○星野部会長 1のほうは「育てる」だとすると、7は「伸ばす」ということをきちんと入れていただければと思います。ありがとうございます。

では、目標7、よろしいでしょうか。

では、最後、まさに競争力を高めるための目標8、66ページからですけれども、ここでご指摘はいかがでしょうか。お願いします。

○委員 細かい点なのですが、68ページの施策の8－1の都心部のところで、二つ目の段落の文章が、ややわかりにくい気がします。「天神・渡辺通、博多駅周辺、ウォーターフロントの3地区を核として、都市機能やアクセス性、回遊性を高めます」というのは、3地区それぞれの内部の都市機能やアクセス性、回遊性を高めるというように読める気がします。しかし、この3地区がばらばらになっていることがむしろ一番の課題であって、博多駅と天神とウォーターフロントの3地区の連結を強めないといけないと思います。この文章を見ると、それぞれを独立させて、機能性、アクセス性、回遊性を高めるようにも受け取れます。「回遊性」の言葉の中に含まれているのかもしれませんが、私は3地区を核として、地区内部の都市機能を高めるとともに、3地区相互の連結性を高めていかなければならないのではないかと思います。

また補足的に申し上げますと、天神地区と博多駅地区はそれぞれ地域がエリアマネジメントの組織をつくられていて、今、相互の連携を進められているところです。ウォーターフロントというのは港湾局の管轄で、いわゆる臨港地区という指定がされていて、

役所の縦割り社会の見えない線が入っていると思います。

都心再生課を数年前に設置されましたけど、特に、ウォーターフロントと都心部をつなげることを強化されていいと思います。目に見える形でもっと進めていかないと都心部に近いウォーターフロントが生かし切れないと思いますので、ここはもっときちんと書かれたほうがよい気がします。

○事務局（藤本） 意識としては、ご指摘のとおり、この3地区の連携をいかに高めていくかというところに主眼を置いているつもりですが、文章表現として足りないということですので、少し検討させていただきたいと思います。

○委員 同じ話の続きで、FDCの都市再生部会での議論も、多分委員の指摘と同じ方向で、とにかく連携して一体として頑張らないと、他都市の都心と比べたら魅力は乏しい、十分ではないということがあると思うんです。そのときに部会で強調されたのが、三つのゲートをあわせてつながないと、多分、3地区だけつないでも意味がないのではないかとということです。それは、空のゲートである空港と高速鉄道の拠点である博多駅と海の拠点である港湾で、ここでは空港が抜けているんですね。都心と空港が一体で直結しているということを徹底して訴えないとまずいのかなと思っています。それについて施策として取り組むという方向で検討いただきたいというのが一つです。

もう一つは、前の目標での発言と同じです。8-1と8-2を見比べたときに、8-2は産業的な取り組みがすごく書き込まれていて、ICと学研都市と百道にはすごく経済施策が見えます。都心は住棟や道路、下水の施策がメインであって、経済施策はなくても何とかなるのではないかとというふうに読んでしまったんですが、今の福岡のビジネス環境というのは、多分そんなことはないんですね。都心も頑張らないと、多分ハードだけつくって中身が埋まりませんという状況はなかなか変わらないのではないかと思います。先ほどの目標6の発言とも絡むんですが、ぜひ、ここに「都心には都心としてのビジネスの振興策を」、あるいは「都心に必要な産業分野についての集積を」という文言を入れていただきたいと思います。

○星野部会長 いかがでしょうか。集積を生かしながらという考え方をもう少し入れていただくことでよろしいですか。

○事務局（光山） そうですね。先ほどの施策の中のビジネス集積のいわゆるインセンティブ施策とあわせて、都心の部分をどうしていくかというのは、非常に、ご指摘のとおり大事なところだと思っていますので、両方含めて検討させていただきたいと思います。

○星野部会長 先ほど、委員から、既存のものを生かしながら中身は最先端であるモデルは東京駅だという話をお聞きしていたところですが、大学は確かに福岡市がつくるものではありませんが、大学の集積を生かして連携を高めることで、新たな価値を生み出せる可能性があります。連携による価値の創造ということをここでもう少しわかりやすく書いていただいたほうがいいですね。

○委員 69ページの8-5です。施策の方向性を見ていると、前の61ページの全体的な就労支援の充実の内容と比べると、福岡で学ぶ留学生のグローバル人材のネットワーク構築しか書いてありません。具体的に、どういうふうに留学生を支援していくかを加えたらどうかと思います。

もう一つは、下の指標項目です。現在、在留資格を持っている外国人の人数は2,696人で、おそらく就職のビザですね。そこの10年後の4,200人という数値はどういう根拠で出しているのでしょうか。10年間かかっているのだから、これから福岡に外国人の方がどのくらい増やすとか多分目標があると思いますので、パーセンテージで表現したらどうかと思います。いかがですか。

○事務局（安川） まず、指標です。在留資格を持つ外国人の数の目標値の置き方は、過去10年間の推計を下回らないで維持していくんだという形の目標値の設定にしております。

○委員 以上です。

○星野部会長 ほかに目標8、いかがでしょうか。

○安浦会長 8-7は、ほんとうに「超広域経済圏」とか「日常生活経済圏」という言葉で書かれますか。

○星野部会長 これは見直しをお願いしていたはずなんですけど。

○事務局（藤本） 表現として、「海を挟んで向き合う」とか、そのあたりのご指摘のところは直しているところなんですけど。

○安浦会長 「日常生活経済圏」という言葉ですよ。これは、かなり踏み込んだ言葉だ

と思うんですよ。

○事務局（藤本） 超広域経済圏を形成しようということは合意を結んだ形で言っていて、めざすところの「日常生活経済圏」という表現、ここが強過ぎないかということですね。

○星野部会長 おそらく、この「日常生活経済圏」という言葉を使うのは、国境のボーダーのまち、例えばカナダとアメリカの国境で通貨によって割安の国に人が買い物に行くとか、ドーバ海峡の両側で、ポンドとユーロの為替の関係で、たばこだったら大陸に行って買うだとか、そういうことではないかと思うんです。そこまでのものが、海を挟んであるかということ、その表現は過度ではないかと思うんですけど、いかがでしょう。

○事務局（藤本） めざしますというところなんですけど、実際、髪を切りにこちらに来る方がいるという話だとか、ちょっとした買い物や外食にということで、日本の中では比較的それに最も近いような状態ではないかなということで置いているんですが、皆さんが強過ぎるということであれば、少し考えたいかなと思います。

○安浦会長 「日常的な生活経済圏に近づける」というぐらいの表現にしておかないと、何か「日常生活経済圏」というのは、星野部会長が言われるように、川一本挟んで隣の国になっているような感覚にとられてしまうような気がするんですよ。

○事務局（藤本） わかりました。

○星野部会長 ぜひ再考をお願いいたします。

目標8、よろしいでしょうか。

それでは、大変申しわけないんですけど、時間がもう来てしまいました。この都市の成長部会が中心とする目標の5～8を含めて、今、目標についてはご意見をいただきました。次に、簡単に、「空間構成目標」と、最後の「区のまちづくり」に入りたいと思います。

特に、「空間構成目標」についての修正点の一つだけ、地域拠点がある地域になかったので、長住・花畑を追加したという修正点だけだと考えます。そして、最後の「区のまちづくりの目標」です。区のまちづくりについても、主には全体の記述の非常に少なかった城南区について、100ページ、101ページの記述を増やしていただいたというぐらいかと思います。

最後の「区のまちづくり」と「空間構成目標」についてご意見のある方はいらっしゃ

いますでしょうか。

○委員 アクセス性の向上という言葉がよく出てきます。例えば、78ページの(4)の②の二つ目の丸に「都心部・活力創造拠点などへのアクセス性の向上を図ります」とあります。ほかにもアクセス性の向上という言葉が出てきており、先ほどの目標8のところにも出てきますが、内容をきちんと説明したほうがよい気がします。都心部と活力創造拠点と、先ほど委員が言われた、空港も含めたそれぞれの連結をしっかりと強化することを意味するのだと思いますが、具体的に言うと、バスの頻度を上げるとか、場合によっては新しい路線をつくっていくということにつながってくると思います。その辺をもう少しかみ砕いて、どこかできちんと説明したほうがよい気がしました。

それともう一つ、85ページ目の東区のところです。東区の85ページ目の下から二つ目の丸のところで、「新しい都心機能を担い、活力を創りだすまち」というところに関係すると思いますが、昨年、アイランドシティ・未来フォーラムの座長をさせていただき、一般公開、マスコミ公開のもとで、地元の代表の方も含めて協議しました。そのときに、アイランドシティのアイデンティティやブランドをもっと確立させていく必要があるということを地元の方が言われていました。また、人工島と呼ばれるのは、地元の方はすごく心が痛むそうです。マスコミに人工島と書かれます。マスコミの方を悪者にするつもりは、今ありませんが、突き詰めて考えると、やはりアイランドシティによる意味でのブランドやアイデンティティが確立していないことが原因ではないかと思います。地元の方の声として、そういうものをきちんと確立する、あるいは、できればそれが魅力的なネーミングにつながっていくようにしてほしいということをフォーラムでは毎回のようにならわれていました。既にそのフォーラムは終わりましたが、私は座長の責任として、あえてここで発言をさせていただきます。

できれば、この下から二つ目の丸のところにそういったことも含めていただけると、地元の方の意見も反映されると思いました。

○星野部会長 ありがとうございます。

「空間構成目標」のほうでは、委員のご指摘で、交通体系の重要性について、早い段階で入れていただいたんですけど、アクセス性の向上ということについては、つなぐということについて、もう少しそこで詳しく書いていただくということによろしいですね。

○事務局（藤本） はい。そのようにいたします。

○委員 詳しくというところで、アクセスと接続を分けて考えるというのが多分基本だと

思います。一言で全部アクセスとなっていますが、交通のプロは市役所に一番多いので、アクセスとは何ぞやの説明ではなくて、ぜひ丁寧に、総合交通体系とはこうこうしかじかというところまで踏み込んで書いていただきたいと思います。

○事務局（藤本） わかりました。

○星野部会長 よろしいですか。それはぜひお願いいたします。

あともう一点、委員からご指摘いただいた東区の記述についてはいかがですか。

○事務局（藤本） 入れる方向で検討させていただきます。

○星野部会長 よろしくをお願いします。

ほかに、空間目標、区のところでいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

私が読み過ちまして、非常に今日は順調に進んでいたのもので休憩をとった分だけ時間が過ぎてしまって、大変申しわけなかったんですけども、無事、最初の基本構想、基本計画から目標、特に私たちの担当している都市の成長の目標について皆さんにご審議いただいて、最後、この空間目標と各区の目標についてご審議いただいて見直しをしていただきました。今日の見直しに基づいて、最終的に修正案を来週ご提示いただいて、これを最終的な答申につなげて、それを全体で話し合うというプロセスになるかと思います。今日、ご審議いただいたことは、ここまででほぼ全体を網羅していただいたというふうにご考えておりますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 それでは、非常に長い時間お疲れさまでした。

事務局のほうからご連絡はいかがでしょう。

○事務局（藤本） どうもありがとうございました。

本日は時間の関係で言えなかったけど、もう一言言いたいということがございましたら、明日ぐらいまでに、すみませんがメールなり電話なりで追加でいただけましたら、しっかり反映したいと思います。

次回は1週間後、11月6日火曜日の同じく3時半からです。次回、場所が市役所の15階講堂になっておりまして、こちらではございませんので、場所をお間違えないようお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

○星野部会長 ありがとうございました。

閉 会